

26. マトリカリアの夏秋出し栽培

福島県農業試験場会津支場・平成9～11年度春夏作試験成績概要

1 部門名 花き－その他の1・2年草－生理生態 05－26－01040818

2 担当者 江川孝二・小林祐一・浅沼顕

3 要 旨

マトリカリアは近年、高温抽だい性のある品種が選抜され、スプレーギクに似たボリュームある草姿から長期出荷が望まれる品目の一つである。しかし、生理生態に関する試験例が少なく、会津地域における開花特性も不明である。そこで会津平坦地域における夏秋出し栽培を確立するため、播種適期、電照処理、摘心処理について無加温栽培で検討した。

(1) 7月以後に開花させるためには、3月下旬以降が播種適期であった。しかし播種が遅くなるほど草丈は短くなる傾向がある。特に‘スノーボール’は7月以後40cm未満の切り花しか確保できないため、夏出し栽培には不向きな品種であった。

(2) 2月から7月まで1ヶ月毎に播種を行い、電照処理(午後10時から午前2時までの暗期中断)のもとで栽培したところ、7月播種でも12月までに開花が確認されたことから、マトリカリアは、電照処理と低温期の保温等を考慮すれば、切り花長は短く、ばらつきも見られるが、周年出荷も十分可能であると考えられた。

(3) 5葉～10葉残しての摘心処理は、無摘心栽培と比較して切り花本数を増加させた。また下位の側枝の伸びを抑え上位のボリュームを向上させるため切り花品質を向上させた。

(4) 以上の結果から、マトリカリアの夏秋出し栽培は、品質面での課題は残るが、会津平坦地域でも栽培可能であることがわかった。しかし栽培圃場は出来るだけ夏季冷涼な地域が適していると考えられる。